

天城山山行報告

【山行日】2024年 5月 19(日) 曇り後小雨

【集 合】岩舟支所 P AM 4:00

【費 用】マイカー2台 : 4,900円

【メンバー】CL:鈴木ユ、SL:大西、
青柳、飯野、大塚、石澤、小林、嶋田、鈴木ミ、
野口、福島、渡邊カ

【コースタイム】岩舟支所 P4:00=天城高原登山
口 P7:05/7:25~万次郎登山口 7:45~万次郎岳
8:40/8:50~石楠立 925~万三郎岳 9:55/10:00~
ブナ平 10:15/10:55~瀬沢下降点 11:20~

瀬沢分岐 12:40~天城高原登山口 P13:30/13:40=岩舟支所 P17:35

山行アンケートで天城山にシャクナゲの時季に登りたいとリクエストがあり、去年の開花状況など調べて計画した。岩舟支所を4:00に出発し、東北道から圏央道、小田原厚木道路を進んで小田原西



IC で降りる。直ぐにアネスト岩田ターンパイク

に入り、伊豆スカイラインを經由して天城高原登山口の駐車場に着く。手前の駐車場は満車で、奥の駐車場に車を止める。出発の準備を整えたらトイレの前に移動し、トイレを済ませてストレッチを行なったら出発する。道路を渡って登山道を下って行き、薄暗い谷あいの道を進むと万二郎岳登山口に出る。左に万次郎岳に向かって進み、カエデやヒメシヤラの自然林の道を登って行く。赤茶色のスベスベの木

肌の大木に「エ〜なにこれ？」と聞かれ「これがヒメシヤラの木だよ」と答えると、「エ〜そうなんだ、初めて見た」と驚いていた。しばらく登るとアセビの木が目立つようになり、アセビの新緑がとても美しい。淡い緑や薄いオレンジ色の照葉は、花が咲いたように綺麗だった。時折薄紫色のトウゴクミツバツツジの花が見られるが、見頃は過ぎていてあまり綺麗ではない。1時間程で万二郎岳山頂に着くが、樹林に覆われていて展望は得られない。山頂標識の前で記念写真を撮り、小休止してゼリーや菓子をいただいたら万三郎岳に向かう。一旦下って登り返すと馬ノ背に出て、ここから一面のアセビのトンネルの中を歩く。樹



齢百年を超えるようなアセビのトンネルが続き、北関東では見られない風景に皆さん大喜び。急坂を下って行くと石楠立の鞍部に出て、ここら辺から天城シャクナゲの群生地が始まる。

去年はシャクナゲの当り年で沢山花が見られたようだが、今年は裏年に当り花の数が少ない。それでも大きな天城シャクナゲの木は見事で、皆さんスマホのカメラに収めていた。ここを過ぎると



万三郎岳への登りになるが、登山道が大きくえぐれて段差が大きいが、脇にいくつもの踏み跡がありこちらを登って行く。急坂の踏み跡をしばらく登ると傾斜が緩くなり、まもなく一等三角点が置かれた万三郎岳山頂に着く。山頂は樹木に囲まれているが、北側が開け富士山が見えるはずだが曇っていて見る事が出来なかった。大勢の登山者で賑わっており、順番を待って山頂標識前で記念写真を撮り、小休止したら北側の尾根を進む。この尾根がアズ

マシャクナゲの群生地だが、今年は花が少なく所々に見られる程度だ。それでも皆さんは無事に山頂を踏破した喜びに溢れ、楽しそうに花を愛でながら下って行く。

ブナの大木駄目立つようになると涸沢分岐点が近くなり、平坦な場所でランチタイムとする。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、おにぎりやお稲荷さんをいただく。お惣菜やデザートが配られ、ランチが済んだら下山開始する。涸沢分岐点から右に下って行き、万三郎岳の



山腹を巻くように進む。水場の先から植林帯の尾根を北に進み、しばらく先で大きく東に向かって回り込んで行く。苔むした谷間の道を行き、菅引分岐を右に進むとやがて万次郎岳登山口に出る。ここからは朝通った道に戻り、20分程登ると天城高原登山口駐車場に着く。

駐車場手前から雨が落ちてきたが、なんとかレインウエアーを着ることなく車に戻れた。靴を履き替えトイレを済ませたら車に乗り、帰路に着く。

帰りは往路に戻り、箱根新道経由で小田原厚木道路に向う。小田原厚木道路が工事中で渋滞したが、20分程度の渋滞で通過出来、予定より早く岩舟支所に帰着した。